

第 19 回 社会福祉士 専門科目（やまだ塾）

国家試験 問題・解説

=②障害者福祉論＜事例 10＞=（問題 98～問題 100）

【障害者福祉論】

（障害者福祉論・事例問題）

次の事例を読んで、問題98から問題100までについて答えなさい。

（事 例）

Aさん(男性, 23歳)は, 19歳のとき, 職場からの帰宅途中, バイクの自損事故で頭部を受傷し, 救急医療センターに搬送された。頭蓋骨骨折, 脳挫傷, びまん性軸索損傷と診断され, 低体温療法を受けた。3週間ほど意識不明であったが, 徐々に意識が回復した。その後, 理学療法, 作業療法, 言語療法などの訓練を受け始めたが, 感情の起伏が激しく, 他の入院患者に対する暴言や暴力のために病院内での対人関係にトラブルが生じた。そのようなこともあって退院し, 在宅療養となった。

しかし, 家庭内では, 火の始末ができない, 訪問販売員から不要な商品を購入してしまうなどの問題が頻発した。また, 家族のささいな言動に過度に反応する, いらいらして家族に暴言を吐くなど, 対人関係の拙劣さにより, しばしばトラブルが発生した。したがって, 常に家族による見守りが必要な状態で, Aさん自身も家族もストレス状態が続いた。また, 将来に対する不安もあり, 職場復帰を目指して, 施設において通所での訓練を開始することとなった(問題98)。

訓練開始時の状態は, 軽度の右片麻痺があるものの, 屋外歩行も杖なしで可能であった。高次脳機能障害として, 記憶障害, 注意障害, 遂行機能障害, 病識欠落, 依存性・退行, 感情コントロール低下, 対人技能拙劣, 固執性などが認められた(問題99)。家族は訓練に大きな期待を寄せており, 職場復帰することが, 将来にとって最低限必要であると考えている。元の職場は事故から2年たって退職したが, 以前の上司は, 治ゆすれば復職させてもよいと言っている(問題100)。

問題 98 Aさんの職場復帰へ向けた, 現時点での支援に関する次の記述のうち, 適切なものに○, 適切でないものに×をつけた場合, その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. Aさんの希望は職場復帰であるので, 具体的な日程を決めて本人の自覚を促し, 復職するための支援を早急に開始する。
- B. 就労支援においては, Aさんの対人関係の問題を理解し, 周囲の人々とのパイプ役を務める身近なキーパーソンを選ぶことが重要である。
- C. 確実に職務を遂行するためにも, 問題が発生するごとに即時のフィードバックを行い, 本入が障害

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

を意識できるようにするアプローチに努める。

D. 職場復帰の重要な課題になると考えられるので、メモ帳の活用など、記憶障害に対する代償手段の活用を積極的に働き掛ける。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	×	○	×
3	×	○	○	○
4	×	○	○	×
5	×	×	×	○

問題 99 Aさんは、高次脳機能障害に特有な様々な症状を示しているが、将来に備え、生活面・就労面について、施設が行うべきアプローチに関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

A. 注意障害に対しては、パソコンを活用するなど、統制された条件下で本人の能力に合わせ、課題に集中して取り組めるような環境整備に努める。

B. 遂行機能障害に対しては、1日・1週間単位でのスケジュールの大枠を決め、それに当てはめることで、安定した行動パターンの確立を目指す。

C. 感情コントロール低下に対しては、生活場面での気分の安定や衝動のコントロールのために、専ら薬物療法を優先して実施する。

D. 対人技能拙劣に対しては、本人・家族のストレスを軽減するために、Aさんが一人で外に出る機会を増やし、第三者とのかかわりの中で厳しさを体験させる。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	×	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問題 100 現時点では、将来の方向づけが難しいAさんに対し、これからの支援のあり方に関する次の

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A. Aさんの支援においては家族の果たす役割が大きく、施設退所後は、生活面についても就労面についても、関係者から家族へのアプローチが中心となる。
- B. 復職に当たっては職場の協力が重要となるので、本人が復帰する前から、上司や同僚と話し合うなど、職場との情報交換を密にしておく。
- C. Aさんは障害が軽度であるため、今後、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の利用について、検討する必要はない。
- D. Aさん本人や家族がピアカウンセリングに参加したり、有効な情報を得られると考えられるので、地域の家族会等を紹介する。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D